

文廟御傳畧

新見正信雪野傳附

カ一カニのむいまで
むいまで
むいまで
むいまで
むいまで

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

タイトル番号 : 0063

書名 : 文廟御傳畧

1冊

文廟御傳畧

文廟御傳畧
卷之...

...



文廟寺傳畧

文照院様涉初少くは

虎松極々奉稱の寛文二壬寅年四月九日

末刻 涉誕生寛文三癸卯年

清楊院極 二條殿姫君 涉法号随禮院極
天津寺の御書送

涉僧徒出立の旨

虎松極の事涉遠くは 思存の如く是

傳中寺の御書送大田寺に送る

御前より 百出の旨 涉の旨を今度



中絶人より其公極少成り予は法任嫡子
虎松殿を承りて中絶人の法任嫡子
承知を極入念より其法任河國に
甲府殿嫡子小紛等より中絶人の
傳中絶人の承りて其法任嫡子三人
より其法任何れも法任可任者中絶
法揚院極少 又右傳中絶法中絶
神印を為す 法滿院八月廿日法供
より 虎松極傳中絶を為

入今戸田大隅
小川町在

傳中絶を為す法上院を造りて

長次傳中絶と夫婦并に乳母を

今長尾兵
三郎徳母

法例に在る法長育より且又

津母公極少より其後誠智と為す

其末松平右近
將監

妻女等より其法任嫡子率度以下

長昌院極少より始に法任嫡子
有る法任後上院に法改葬有る法任

尾林部小丸和歌妻細少

虎松極傳名を其法改

左近極と申すは、本寺の虚空院菩薩
の御所なる山王坊中、常明院の御中
夫婦の明聖待たせ、祈禱するに、寛文六
年

左近極、沙土歳と為、成山寺、禱意、
此の御所、御中、御末、御方、御中、
虎松、敷事、為、年、五、歳、成、中、山、内、院、
禱、禱、着、御、所、何、卒、思、宅、山、下、
中、達、上、月、十、六、日、御、中、宅、御、末、御、方、

左近極、沙土、對面、山、下、
此、改、之、御、所、以、致、付、
沙、土、を、意、多、有、之、間、
右、之、敷、事、も、御、中、
此、石、屋、之、御、所、
清、揚、院、極、沙、内、意、
茅、の、葉、を、付、

寛文九酉年正月

左邊様清八氣清書初

松竹 山人 松風

右邊様三枚松 御書備中守の御下
備中守素為清八氣清書初
山王常明院の
御書に定る今又常明院にて
御書に寛文十
庚戌年正月申日

清揚院極彩身備中守鴻田清隆守右衛門守政忠
と為 下清意松の清八氣清書初
入極了松

表の紙 御書出

虎松殿清八氣清書初 入極了松

との思ふは松 御書出三人有松松極了

存の御書清八氣清書初三人有松 御書出松

立未寄清隆守中松今松松 御書出松

松有御書出松とやうな御書中松松松松

御書出松何も合点御書出松有松とやうな

備中守の御書何を御書御書御書御書

御書御書御書御書御書御書御書御書御書

以是時其上前方

虎松殿と中男子を新具備中の方（新具備中）の交

虎松殿先流に被死去は也 甲府殿隠し

並に備中と妾殿と男子と

虎松殿と中流並に備中と逆意に候具は

以候中との堂中支より 志中方子持也

中の付候御朝達

上聞御了旨と候に候也 仰出に別の日奉

久世大和守と云々

殿有院極清側は 高島 百甲府宰相事

礼の致し候は又ハ左も中との神は今日奉る

妾細見申言上は旨察

上意有く大和守等畏忌別退出は案内也

不中上様因沙殿ハ左奉清玄園より申候は

持より中との久々不中因沙様候は承透也

是合系上は申中との交は承候は御事

此の家在中ハ只今退出は御事用人也（承）